日本泌尿器科學會雜誌

第二十三卷 第八號

昭和九年八月

THE JAPANESE JOURNAL
OF
UROLOGY

Vol. 23, No. 8, Aug. 1934.

原 著

小兒腎臟結核

慶應義塾大學醫學部皮膚科泌尿器科教室

教授 醫學博士 北 川 正 惇
醫學士 渡 邊 謙 一

*From the dermato-urological clinic of the faculty of medicine of
Keio-Gijuku university (Director Prof. Dr. M. Kitagawa.)*

Tuberculosis of Kidney in Children.

Prof. Dr. M. Kitagawa and Dr. K. Watanabe.

In our dermato-urological clinic 37 cases of tuberculosis of kidney in children were observed during exactly 14 years, ranging from august 1920 to august 1934.

1) Numbers of patients of the tuberculosis of kidney during the last 14 years (from august 1920 to august 1934) were 929, in which 37 cases were children under 15 of age i. e. 3.98% of the total number of patients of the tuberculosis of kidney.

2) The youngest one was 4 years and 10 months. Under 5 of age there was no case but this one. In 14—15 of age the cases are most numerous. i. e. 1 case in 1—5 of age, 7 in 6—10, 29 in 11—15.

3) Sex of the patients: boys—24, girls—13 cases.

4) Affected side of kidney: right—8 cases, left—8, both sides—6, undetermined—15.

5) Cases which have familiar anamnesis on the tuberculosis were 7 and transmitted tuberculosis to other organs were 13. Complications were phthisis pulmonum (14 cases), lymphadenitis tuberculosa (4 cases), arthritis tuberculosa (1 case), epididymitis tuberculosa (3 cases) and tuberculosis vesicae (36 cases).

6) Urological examinations as phenolsulfonephthalein-proof, cystoscopy, pyelography etc. were held in these cases.

7) The retroperitoneal nephrectomy was performed under general or lumbar narcosis on 8 cases.

8) Pathological-anatomical classification after Wildbolz of removed kidney is as follows: well developed state 7 cases, end state 1 case.

9) In these operated cases, 3 were cured, 1 became better, 1 died 8 years after the operation, 3 were not cured.

第 1 章 緒 言

小兒ニ來ル腎臟結核ハ比較的稀ナモノデ、其豫後ハ大人ノソレニ比シテ悪ク、死亡率ハ年齢ニ逆比例スルト云ハレテ居ルガ、幼時ニ於テ腎臟結核ヲ臨牀的ニ確メ得ル場合ガ比較的少イノデアツテ、剖検成績ニヨレバ、臨牀的經驗ヨリ遙ニ多ク存在スル事ハ諸家ノ認メテ居ルトコロデアル。Lilliet & Barthey ハ213例ノ小兒屍體中15.7%、伯林大學病理學教室ニ於テハ126體ノ解剖例中ニ13例即チ10%ノ小兒腎臟結核ヲ發見シテ居ル。

而シテ病理解剖ノ上ヨリ腎臟結核ヲ 甲) 急性粟粒結核ト 乙) 慢性局所性結核トニ區別シテ居ルガ、小兒ノ腎臟結核症ノ多數ハ前者即チ粟粒型デ、後者即チ乾酪變性又ハ空洞形成ヲ來ストコロノ慢性腎臟結核ハ比較的少イ。幼年時代ニモ後者ガ發生スルケレドモ、10歳以上ニ及ンデ初メテ認メ得ベキ數ニ達スル事ハ諸學者ノ唱フルトコロデアル。故ニ粟粒型ヲモ合スレバ、小兒腎臟結核ハ大人ヨリモ寧ロ多イト云ハレル。内村氏ニヨレバ、結核罹患屍體105個中15歳以下ノ小兒ノ慢性腎臟結核ハ男女合計10例即チ9.52%アリ、之ニ粟粒性腎臟結核ヲモ加算スレバ53例即チ54.76%ノ多數ニ上ルト云フ。

近時小兒用膀胱鏡、靜脈性腎盂攝影法等診斷法ガ長足ノ進歩ヲナシタメニ、小兒腎臟結核ノ診斷ガ往時ニ比シテ容易トナリ、症例報告(鈴木、坂上、和田、原、北川、渡ノ諸氏)ハ勿論、統計的觀察(志賀、植田ノ諸氏)ノ數ガ追々増加スル様デアル。

余等ハ大正9年8月開院以來昭和9年7月ニ至ル滿14ヶ年ニ於テ、我慶應義塾大學醫學部皮膚科泌尿器科教室ヲ訪レ、腎臟結核ト診定サレタ數ハ年15歳以下ノ小兒腎臟結核患者37例ヲ得タノデ、茲ニ之ヲ一括シテ報告シ、併セテ統計的觀察ヲ試ミヤウト思フ。

第 2 章 實 驗 症 例

大正9年8月ヨリ昭和9年7月ニ至ル間ニ外來ヲ訪レ又ハ入院シテ小兒腎臟結核ト決定サレタモノハ37例デ、之ヲ年度順ニ記載スレバ第1表ノ如クデアル。

第 1 表

症 例 番 號	初 診 年 度	患 者	年 齡 (數・年)	性 別	罹 患 側	主				訴 其 他	自 初 診 マ デ ノ 期 間 發 現 ヨ リ	家 族 的 結 核 素 因	既 往 症	結核合併症				腎 臟 部		尿 所 見						
						尿 意 頻 數	排 尿 痛	尿 溜 濁	血 尿					肺 部	淋 巴 腺	生 殖 器 (副 睾 丸)	關 節	否	觸 壓 痛	濁	反 應	上 皮 細 胞	赤 血 球	膿 球	結 核 菌	雜 菌
1	大正9年 同10年 同11年	山口	14	合	左	+				左腎部壓痛	8ヶ月	不明	肋膜炎	+	+	-	-	左	+	酸	+	+	+	+	-	
2	同12年	菅井堀	12	合	右	+	+	+			6ヶ月	-	-	-	+	+	-	右	+	中	+	+	+	+	-	
3	同13年	古賀宮崎	14	♀	兩	+	+	+	+		17ヶ月	-	腸チフス 急性腎臓炎	-	-	+	-	兩	+	酸	+	+	+	+	-	
4		古賀宮崎	12	合	左	+	+	+	(+)		2ヶ月	-	虛弱, 腎臓炎	+	+	+	-	左	+	酸	+	+	+	+	-	
5		鈴木	7	合	左				+		不明	不明	-	-	+	-	-	左		+		+	+	+	-	
6		鈴木	12	合	不明		+		+	右腎部壓痛	7ヶ月	不明	肋膜炎	-	+	-	-	右		+		+	+	+	-	
7		浅見	9	合	左	+			+	尿閉・運動時左腎部疼痛	6ヶ月	-	虛弱	+	+	+	-	左	+	+	+	+	+	+	-	
8		堀江	13	♀	左				+	運動後ノ弛張性發熱	4ヶ月	-	-	-	+	+	-	左	+	酸	+	+	+	+	-	
9	同14年	堀江	15	合	兩	+	+		(+)		7ヶ月	不明	肋膜炎 股關節炎	-	+	+	-	兩	左	+	酸	+	+	+	-	
10		三井寺	15	♀	不明	+	+		+	腰痛	2ヶ月	不明	乾性肋膜炎 結核性腹膜炎	-	+	+	-	右	+	酸	+	+	+	+	-	
11	同15年	早川	13	合	不明	+	+	+	(+)		7ヶ月	不明	-	-	+	+	-	-	+				+	+	-	
12		佐藤	13	合	不明	+	+		+		不明	不明	-	-	+	+	-	不明	+				+	+	-	
13	昭和2年	並木	14	合	右	+	+		(+)	運動時膀胱部疼痛	4ヶ月	-	脚氣	-	+	+	-	-	+	酸	+	+	+	+	-	
14	同3年	小曾	12	合	右	+	+		+		7ヶ月	-	-	+	+	+	-	右	+	酸	+	+	+	+	-	
15		佐藤	8	♀	右	+		+	+		1ヶ月	+	-	+	+	+	-	右	右	酸	+	+	+	+	-	
16		恩田	14	♀	兩			+	+		3ヶ月	不明	-	+	+	+	-	兩	+	酸	+	+	+	+	-	
17		下田	6	♀	不明	+				腹部疼痛 關節痛	1ヶ月	不明	不明	-	+	+	+	-	+	酸	+		+	+	-	
18	同4年	岩松	9	合	不明	+	+		(+)		3ヶ月	-	-	+	+	+	-	-	+	酸	+		+	+	-	
19		角能	14	合	不明	+	+				2ヶ月	-	健全ニ見ユ	+	+	+	-	-	+	中			+	+	-	
20		折原	15	合	不明	+	+				6ヶ月	-	結核性腹膜炎	+	+	+	-	右	右	+	弱酸			+	+	-
21		加藤	12	合	左	+		+			11ヶ月	不明	-	-	+	+	-	左	+	中			+	+	-	
22		山中	15	合	不明	+	+		+	夜尿・腰痛 下腹部疼痛	32ヶ月	-	肋膜炎	+	+	+	-	-	+				+	+	-	
23		今井	14	♀	兩	+	+			左側腹部緊張感	18ヶ月	+	アデノイド	+	+	+	-	左	左	+	酸	+	+	+	+	-

24	同5年	久田平山	5	合	不明	++	++	+			3ヶ月	—	—	++	++	++	—	—	—	++		++	++	—
25		丸山松	12	♀	左	++	+			左腎部壓痛	3ヶ月	+	麻疹	+	—	++	—	—	右左	+	弱酸	++	++	++
26	同6年	丸山松	15	♀	右	+				尿閉	不明	不明	右側結核性副睾丸炎	—	—	++	—	—	—	—	酸	++	++	—
27		岸下	10	♀	右	—	—	—	—	右側腹部腫瘍	2ヶ月	+	百日咳	—	—	—	—	右	—	—	酸	—	++	—
28	同7年	古賀	14	♀	不明	+			+	尿閉	19ヶ月	—	—	—	++	—	—	—	++	酸	—	++	++	—
29		松倉	14	♀	右	++	+		—		3ヶ月	+	肋膜炎	—	—	++	—	右	—	+	弱酸	++	++	++
30	同8年	浅野	15	合	兩	++	++	+			9ヶ月	—	—	—	++	—	—	右	—	+	酸	+	++	—
31		橋本	15	合	不明	+	++	+			2ヶ月	不明	右側肋膜炎結核性腹膜炎	—	—	+	—	左	—	++	酸		++	—
32		松原	15	合	左	++	++	+		右側腹部鈍痛發作	5ヶ月	+	感冒ニ罹リ易シ	+	—	+	—	—	—	++	弱酸	++	++	+
33		澤里	15	合	右	++	+	+	+	夜尿	1ヶ月	—	氣管枝炎腹膜炎	—	+	+	—	—	—	++	中	++	++	—
34		田中	15	♀	不明	++				夜尿	5ヶ月	—	肋膜炎2回	—	+	+	—	—	右右	++	酸	++	++	++
35		小野	15	♀	兩	++	+	(+)			3ヶ月	+	肺炎	—	—	++	—	—	—	++	酸	++	++	+
36	同9年	小野	6	合	不明	++	+	(+)			12ヶ月	—	—	—	—	+	—	—	—	++	酸	++	++	—
37		小野	11	合	不明	++					7ヶ月	—	肋膜炎肺炎		+	+	—	右	—	++	酸	++	++	+

* 他醫ニヨリ腎臓手術ヲ受ク () 時々出現セルモノ

此内、外來患者18名、入院患者19名デ、更ニ入院患者中腎臓手術ヲ受ケタモノハ8名デアル。尙外來患者中ノ1名(丸山某)ハ他ノ病院ニテ腎臓結核ノ診斷ノ下ニ腎臓手術ヲ施サレタル後、來院受診セル者デアル。

入院セル19例ニ就テハ腎臓觸診、尿検査以外ニ泌尿器科學的検査ヲ行ツタ。其ノ成績ハ第2表ニ示ス通りデ、之等ノ結果カラ8例ハ腎臓手術ヲ受ケタルモノ、他ノ11例ハ受ケナカツタ

第 2 表

症 例 番 號	患 者	水 試 験					「フェノール ズルフト ン」試験		膀 胱 鏡 所 見								「ピエログラ ム 所 見	
		攝 取 量 cc	8 12 a.m. (:4時間 排泄量) cc	12 a.m. —8 p.m.	8 p.m. —8 a.m.	尿比重 最低— 最高	色 素 現 出	一 時 間 %	二 時 間 %	膀 胱 容 量	發 赤	結 核 結 節	潰 瘍	輸尿管口部		染尿膀胱鏡		
														右	左	右	左	
2	宮井								40	+	—	—	正常	正常				
7	淺見									++	—	—	發見セズ	發見セズ	7'15"	—		
8	堀江									+	++	++	絮狀物ニ蔽ハ	潰瘍狀	5'15"	—		
14	小貫								70	+			陷凹	正常	—	6'50"		
15	佐藤							8'00"	90	5								

手術ヲ受ケザル者

同上入院患者ノ経過ヲ觀察シテ表トナシタモノハ第3表デアル。退院後ノ経過ハ大部分通信ニヨツタモノデアルガ、消息全ク不明ノモノガ相當數アリ、健康診斷ノタメ來院シタモノハ2例ニ過ギズ。止ムヲ得ズ大部分ハ問ヒ合セニ對スル書信ヲ材料トシテ調査シタモノデアル。

第 3 表

	症例番號	患者	罹患側	入院日數	觀察期間	轉歸	調 查 時 狀 況 (昭和9年6月)						死因
							排尿 晝一夜	回数	膀胱症狀	尿	手術創	生活狀態	
手術ヲ受ケ	2	菅井	右	50	3年8ヶ月	不治全治死亡	8-4	+	精澄 清澄	瘻孔形成	普通	3年後右側副室丸 結核ノタメ入院	不明
	7	淺見	左	20	10年		4-0	-	清澄 濁濁	治癒(25日)		全身狀態佳良	
	8	堀江	左	49	8年1ヶ月		19	-	肉芽不良				

タル者	14	小貫	右	29	21日	全治	5-0	—	清澄	治癒(21日)	食慾増進	
	15	佐藤	右	43	35日	不治	19	+	濁濁	瘻孔形成	手術後尿所見一時良好	
	27	松下	右	50	8ヶ月	全治	5-0	—	清澄	治癒(6ヶ月半)	普通	自覺症状ナク體重増加
	29	古賀	右	39	1年4ヶ月	輕快	7-3	—	清澄	瘻孔形成	普通	
	32	橋本	左	47	5ヶ月	不治	13-4	+	濁濁	治癒(31日)		
手術ヲ受ケザル者	3	堀	兩	30	—	不明	7	+	濁濁			
	4	古賀	左	12	4年	死亡	25	+	濁濁		衰弱加ハル	衰弱
	9	柵木	兩	28	—	不明	16	+	濁濁			
	13	並木	右	20	1年3ヶ月	死亡	15	+	濁濁			不明
	16	恩田	兩	4	6年1ヶ月	輕快	7-3	—	清澄	普通	體重増加但時トシテ濁尿アリ	
	20	折原	不明	14	3ヶ月	不治	13	+	濁濁			
	23	今井	兩	43	2年10ヶ月	死亡	8	+	濁濁			不明
	25	平山	左	28	4年4ヶ月	輕快	4-2	—	濁濁	普通	症状一時増悪後輕快・脊髄カリエス	
	28	岸田	不明	2	—	不明						
	30	松倉	兩	11	9ヶ月	不治	1時間毎— 10	+	濁濁			
	35	田中	兩	2	5ヶ月	不治	30分毎— 1時間毎	+	濁濁		體重ハ増加シ全身状態幾分良好	

第 3 章 統 計 的 観 察

1) 頻度 大正9年以降, 年度毎=腎臓結核患者總數並=小兒腎臓結核患者數ヲ表示スレバ第4表ノ如クデ, 腎臓結核患者總數合計929名=對シテ小兒ノソレハ37名, 即チ3.98%デアツタ。

第 4 表 年度別ニヨル頻度

年 度	腎臓結核患者數	小兒ノ同症患者數	%
大正9年 (8月3日ヨリ)	2	0	0
〃 10〃	21	1	4.77
〃 11〃	19	0	0
〃 12〃	40	1	2.50
〃 13〃	77	6	7.79
〃 14〃	43	2	4.65
〃 15〃	57	2	3.51

昭和 2〃	75	1	1.33
〃 3〃	84	4	4.64
〃 4〃	84	6	7.14
〃 5〃	102	2	1.96
〃 6〃	87	2	2.30
〃 7〃	85	2	2.35
〃 8〃	85	6	7.06
〃 9〃	68	2	2.94
合 計	929	37	3.98

2) 年齢及ビ性別 年齢滿4年10ヶ月ヲ最少年トシテ數ヘ年15年ニ至ルマデ, 年齢ノ増加=從

第5表 年齢及び性別

年齢	男	女	計
1—4	0	0	0
5	1	0	1
6	1	1	2
7	1	0	1
8	0	1	1
9	2	0	2
10	0	1	1
11	1	0	1
12	5	1	6
13	2	1	3
14	3	5	8
15	8	3	11
合計	24	13	37

第6表 罹 患 側

罹患側	左	右	兩	不明
例 數	8	8	6	15

第7表 主 訴

主訴	尿意頻數	排尿痛	血尿	尿濁濁	其他
例數	30	21	15 (7)	15	15

(() ハ時々血尿アリ
其他夜尿 3. 腎臟部壓痛 3. ヲ含ム)

テ見テモ春機發動期ヲ前ニスル14—15歳ニ至ツテ急激ニ増加シテ居ル。性別デハ男子ノ方ガ多數デアツタ。

3) 腎臟ノ罹患側 左側モ右側モ共ニ8例デ差違ナク、兩側6例、罹患側ノ不明ノモノガ15例デアツタ。

4) 主訴 最も多イ主訴ハ尿意頻數ノ30例デ、之ハ自覺症狀中最モ氣付キ易イ爲デアラウ。排尿痛ノ21例之ニ次ギ、血尿、尿濁濁其

ツテ例數ガ増加シテ居ル
ヲ見ル。即チ諸家ノ唱
フルガ如ク、腎臟結核ハ
幼少時ニ發生スル事ハ比
較的少數デアツテ、青年
期ニ近ヅクニ從ツテ急激
ニ増加シ、青壯年期即チ
發育完成期ニ其罹患率ハ
最大トナル。本表ニヨツ

他ノ膀胱症狀ガアルガ、幼少ノ者ニ於テハ明確ニ自覺的症狀ヲ表現シ得ナイカラ、周圍ノ人ノ認メタ症狀ガ自覺症トシテ訴ヘラレル場合ガ多イ様デアル。小兒ノ腎臟結核ニハ屢々夜尿ノ訴ヘガアルガ、37例中3例アルノミデアツタ。又腎臟部壓痛ヲ主訴トスルモノガ3例アツタ。其他ノ症狀ハ略々大人ノソレト同様ノモノデアラウ。

第8表 初發症狀ヲ自覺シテカラ我外來ヲ訪レル迄ノ期間

間期	1ヶ月 以内	2ヶ月 〃	3ヶ月 〃	4ヶ月 〃	5ヶ月 〃	6ヶ月 〃	7ヶ月 〃	8ヶ月 〃	9ヶ月 〃	10ヶ月 〃	11ヶ月 〃	12ヶ月 〃	1ヶ年 以上	不明
例數	3	5	6	2	1	3	5	1	1	0	1	1	5	3

(最モ短キモノ 27日……下田)
(最モ長キモノ 5ヶ年……澤里)

第9表 家族的結核素因、既往症及び結核合併症

	家族的 結核素因	既往症	結 核 合 併 症				
			肺 部	淋 巴 腺 腫	膀 胱	生 殖 器 (副睪丸)	關 節
有リ	7	13	14	4	36	3	1
無シ	18	23	15	32	1	34	36
不明	12	1	8	1	0	0	0

5) 初發症狀 フ自覺シテカラ我が外來ヲ訪レルマデノ期間ハ第8表ニ示ス通りデ最モ早イ例デハ27日, 最モ遲イ例デハ荏苒5ヶ年ヲ經過シテ居ル者ガアル。最モ多イノハ初發症狀ヲ自覺シテカラ2乃至3ヶ月デ訪レル者デ, 6乃至7ヶ月デ訪レル者ガ之ニ亞イデ居ル。

6) 家族的結核素因, 既往症及ビ結核合併症 家族的ニ結核素因ヲ存スル者ハ7例, 有セザル者18例, 不明12例デアル。既往症ニ肋膜炎, 腹膜炎等ノ結核性既往症ヲ有スルモノハ13例デアルガ, 其他生來虛弱ナ者, 腸「チフス」, 百日咳, 肺炎等ヲ患ヒタル者8例アリ。結核既往症ナキ者ノ中, 全ク健全ト自信スル者ハ1例ニ過ギナカツタ。合併症ニ就テハ胸部ニ打診, 聽診上結核性病變アリト認メラレル者及ビ「レントゲン」寫眞ニヨリ肺門淋巴腺腫脹又ハ肺尖浸潤等ノ認メラレル者14例, 頸腺其他ノ淋巴腺腫脹ヲ認メタル者4例アリ。尿路合併症トシテハ主トシテ膀胱結核デアルガ, 松下某ノ1例ヲ除ク36例ハ全部多少ノ症狀及ビ病變ヲ有シタ。生殖器結核合併症ハ結核性副睪丸炎ノ3例丈デ, 尙其他結核性關節炎ヲ合併スル者ガ1例デアツタ。

第10表 腎臓ノ觸診及ビ壓痛

	觸知スル側	壓痛アル側
右	9	8
左	4	7
兩	3	0
不明	1	1
患腎トノ一致	9	10

第11表 膀胱尿所見

外 見		反 應		顯 微 鏡 的 檢 査					
					上皮	赤血	白血	結菌	雜菌
清澄	2	酸	22	+	24	19	37	34	3
渾濁	33	弱酸	4	—	3	4	0	3	21
不明	2	中	4	不明	10	14	0	0	13
		不明	7						

7) 腎臓觸診所見 37例中 1例ハ其ノ記載ガナイガ36例ニ就テ腎臓ヲ觸診シ得ルモノ, 腎臓部ニ壓痛アルモノヲ左右別ニ表示スレバ第10表ノ如クデ, 左側ヨリモ右側ヲ觸レルモノガ多ク又壓痛モ右側ノ方ガ多イ。患腎ヲ觸知シ得ルモノ9例, 患側ニ壓痛アルモノ13例アリ。而シテ患側ニ壓痛アリ, 健側ノミヲ觸知シ得タ例(代償性肥大ヲ考フ)ハ1例ニ過ギナカツタ。但シ小兒ハ腹壁ガ薄イカラ緊満セザル限り大人ヨリ腎臓ヲ觸レ易イ事モ考慮セネバナラス。

8) 膀胱尿所見 外見ノ清澄ナルモノハ2例デ, 内4例ハ初診時既ニ腎臓別出術ヲ受ケテ居タモノ(丸山某), 他ノ1例ハ閉塞性腎臓結核デ膀胱症狀ヲ認メズ, 別出腎ニ著明ナル結核性病變ヲ證明シタ例デアツタ。大部分(33例)ハ渾濁尿デアツタ。反應ニ就テハ酸性ノモノ最モ多ク(22例), 弱酸性又ハ中性ノモノハ各々4例ニ過ギナカツタ。顯微鏡的檢査ニ於テ, 上皮細胞ハ多少ナガラ大部分ノ尿(24例)ニ見ヘ, 赤血球ハ19例ニ證明サレ, 白血球(主トシテ多核白血球デ, 單核白血球ヲモ含ム)ヲ證明シ得ナイ例ハナイ(37例)。結核菌ハ34例ニ於テ證明セラレ3例ニ於テ證明セラレナイガ, 中1例ハ罹患腎別出後受診ノモノデアリ, 他ノ2例ハ別出腎ニ立派ナ結核性病竈ヲ認メテ居ル。

其他雜菌ヲモ證明シタ例ハ3例デアツタ。

9) 腎臟機能試驗 水試驗 10歳以上ノ小兒5例ニ行ヒ得タガ、4時間排泄量ガ攝取シタ水分ノ量ヨリ多量ノ者即チ排泄率1以上ナルモノ1例アリ、排泄率0.9, 0.8, 0.7及ビ0.3ノモノ各々1例アリ、不完全排泄ト覺シキモノハ1例ダケデアツタ。比重ハ成人ニ比ベテ一般ニ濃縮力ガ低下シテ居ルト云ハレテ居ル。我々ノ例ニ於テハ比重差15以上ノモノ3例、10乃至15ノモノ2例デアツタ。

「フェノールズルフオンフタレーン」試験 6例ノ小兒ニ行フ事ガ出来タ。成績ハ良好デ1時間目ノ色素排泄量(%)90ノモノ1例、50乃至60ノモノ4例、47ノモノ1例アリ、何レモ手術可能闕ヲ越ヘテキル。

10) 膀胱鏡検査 13例ニ施行シ得タガ、9例ハ5%ノ「トロパコカイン」0.4—1.0ccノ腰椎麻醉ノ下ニ行ヒ、2%ノ「コカイン」溶液局所麻醉ノ下ニ行ヒ得タモノハ4例デ内3例ハ女子デアツタ。

輸尿管「カテテリスムス」ノ成功シタモノハ10例デ、不能ノモノガ3例アツタ。

同時ニ「インデゴカルミン」排泄試験ヲ併セ行ツタモノハ12例デアツタ。其等ノ結果ハ第2表ニ示ス通りデアル。

11) 「レ」線寫眞像 排泄性「ピエログラフイー」ガ著シク進歩シテ以來、今迄諸検査施行ガ困難デアツタ小兒ニ就テモ腎臟機能並ニ器質的變化ノ程度ヲ知ル事ガ容易ニナツタメ、小兒腎臟結核モ容易ニ診斷セラレ、又手術ノ適應症モ正確ニ決定シ得ル様ニナツタ。症例中「アブロードール」及ビ「ウロセレクトアン」ヲ用ヒテ靜脈性腎盂撮影ヲ行ツタモノハ4例デアル。

12) 麻醉並ニ手術術式 手術例8例中、5例ハ「ロート・ドレーゲル」氏麻醉器ニヨリ「エーテル・クロロフォルム」酸素混合全身麻醉法ヲ行ヒ、1例ハ0.5%「ヌベルカイン」1.2ccヲ用ヒテ、腰椎麻醉ノ下ニ手術ヲ開始シ、中途ヨリ全身麻醉ヲ併用シタ(古賀某)。又更ニ2例ハ5%ノ「トロパコカイン」腰椎麻醉ニヨツテ手術ヲ行ツタ。手術ノ術式ハ「イスラエル・ベルグマン」氏皮膚斜切法ヲ以テ、腰式腹膜外腎臟別出術ヲ用ヒ、腎動靜脈及ビ輸尿管ハ腸腺ヲ以テ結紮シ、輸尿管ハ常ニ「パクレン」氏燒灼器ニテ燒灼切離シ、其ノ斷端ハ主トシテ腹壁筋層ニ縫着シタ。

13) 剔出腎所見 完成期病變ノモノ7例、終末期病變ノモノ1例、即チ凡テ乾酪性空洞型ニ屬スルモノデアル。

14) 經過觀察 (イ)手術ヲ受ケタルモノ(8例)ニ就テ、

一般結核患者デハ何レノ時期ヲ以テ完全治癒即チ永久治癒トナスベキカラ決定スル事ハ極メテ困難デアル。何トナレバ結核症狀ガ或時期全ク消失シテ居テモ、何時再發スルカ又ハ他ノ臓器ニ新シイ病變ヲ起スカヲ豫想シ得ナイカラデアル。全治不治ノ決定ニ就テハ諸家各々其意見

ヲ異ニスルガ、余ハココニ患腎別出ニヨリテ罹患前ト何等變ル事ナキ自覺狀態ニアツテ、膀胱症狀、尿所見其ノ他病の狀態ヲ認メザル者ヲ全治ト看做シ、術後尙多少ノ膀胱症狀ヲ認ムルモ自覺のニハ稍々可良ナルモノヲ輕快トシ、術前ト大差無キカ或ハ更ニ増惡セリト認ムル者ヲ不治ト假定スルコトトシタ。

第 12 表 經 過

	手術(+)	手術(-)
全 治	3	0
輕 快 (自覺的)	1	2
不 治	3	3
死 亡	1	3
不 明	0	3
合 計	8	11

第12表ニ見ル如ク、全治ハ手術シタ者ニ3名アリ（内1名ハ10年間健存シ、全身狀態ハ佳良デアルト云フ）。自覺症ノ輕快シタモノハ1名アリ、全身自覺症狀ハ良好デアアルガ、尙排尿回数多ク夜間ニモ排尿ガアル。不治3名、死亡1名アリ死因ハ不明デアツタ。然シ手術後8年1ヶ月ヲ經過シテ居ルカラ、近期死亡デハナイ。

(ロ) 手術ヲ受ケザリシモノ (11例) ニ就テ

全治ハ1名モナク、輕快ハ2名デ内1例ハ食欲増進シテ體重増加シタト云フガ、此ノ如キ例ハ多クハ腎結核ノ空洞ガ乾酪質、石灰質等デ充填サレテ「キツト腎」、「モルタル腎」ト成リ、所謂自家腎臟別出ノ狀態ニナツタモノカ、又ハ輸尿管ノ癰痕萎縮性閉鎖ニ依ツテ、閉塞性腎臟結核トナリ、結核菌性膿尿ノ流下ガ停止シタタメニ自覺症狀ガ輕快シタノデアツテ、眞ノ治癒デハナク疑似治癒デアアル。早晚症狀ガ惡化シテ危險ヲ起シ易イモノデアアル。其他不治3名、死亡3名デ、内1名ハ衰弱死デアアルガ、他ノ2名ハ死因不明デアアル。

一般ニ手術ヲ受ケナカツタモノハ、手術ヲ受ケタモノニ比シテ經過ハ一層不良ノ様デアアルガ症例ガ少イタメ之等ヲ%トシテ比較考察シ難イノヲ遺憾トスル。

第 4 章 總 括 的 考 察

腎臟結核ノ全結核屍ニ對スル百分率ハ西洋諸家ノ調査スル所ヲ平均スレバ約4.6%ト云ヒ、我國ニ於テハ藤浪氏ノ統計33.9%(内慢性腎臟結核22.1%)ノ大多數ヲ示シ、内村氏ニヨレバ28.3%(内慢性腎臟結核6.1%)ナリト云フ。此ノ數字カラ推セバ本邦人ノ腎臟結核ハ歐人ノソレニ比ベテ多イト考ヘラレル。

而シテ小兒ニ於テハ、解剖例ニヨレバ5歳以下ノモノニハ粟粒結核トシテ來ル場合ガ著シク多ク、11歳カラ15歳ニ及ンデ慢性腎臟結核ノ數ヲ増スト云フ。

次ニ慢性腎臟結核即チ外科的小兒腎臟結核ノ臨牀症例ニ就テ、諸家症例ヲ一括シテ表示スレバ第13・14表ノ如クデアアル。本表中甲類デハ年齢別ガ1—5, 6—10, 11—15ノ3期ニ區別サレタルガ、乙類デハ1—10, 11—15(中川・小池, 大島・永井)ノ2期ニ區別サレ、又丙類デハ1—15(阿久津, 廣瀬)ニ一括シテアルカラ、乙, 丙兩類ハ症例ヲ合計スルニ不便デアアルガ、甲類ノ方ハ合計シテ參考トナシタ。此ノ他20歳以下ヲ一團トシテ症例ヲ擧ゲタルノガアルガ、

第 13 表

報 告 者	年 齡 及 ビ 性						罹 患 側		轉 歸				
(甲 類)	1—5		6—10		11—15		右	左	全治	輕快	不治	死亡	治療中
	男	女	男	女	男	女							
井 上			1		2	3	2	4					
佐谷・瀧川						1		1	1				
鈴 木			1				1					1	
坂 上		1						1	1				
和 田						1	1				1		
原					1			1					
北川(湊)				1	4	1	2	4	3			1	2
志 賀			2		3								
植 田	1		2	1	12	3	12	7	3	6	4	6	
合 計	1	1	6	2	22	9	18	18	8	6	5	8	2

第 14 表

報 告 者	年 齡 及 ビ 性			
(乙類)	1—10		11—15	
	男	女	男	女
中 川・小 池		1	2	
大 島・永 井		1	1	1
(丙類)	1—15			
	男		女	
阿 久 津			2	
廣 瀬	4		4	

(朝倉, 大阪醫大其他)之等ハ比較スルノニ不便ナタメ省略シタ。即チ甲類デハ年齢別ニスレバ, 1—5歳ガ2例, 6—10歳ガ8例, 11—15歳ガ31例トナリ, 性別デハ男29例, 女12例トナル。又罹患側ハ右18例, 左18例トナツテ居ル。

我教室ノ例ト比較シテ見ルト年齢別ノ數字ガ近似シテ居ルヲ見ル, 即チ11—15歳ノ年齢ニ至ツテ急激ニ其ノ數ヲ増シテ居ル。性別ニ就テハ男子ニ頗ル多數デアル事ガ又ヨク一致シテ居ル。外國ニ於ケル諸家ノ統計デハ女

子ノ數ハ男子ニ比シテ多數デアルト云フニ反シテ, 我國ニ於テハ男子ニ多數デアルトスル者ガ多イ。尤モ此等統計ハ小兒腎臟結核ノミニ就テノ統計デハナイガ, 前記ノ如ク小兒ノ症例ニ於テモ矢張り男子ノ方ガ多數デアルト云フ點ハ甚ダ面白い。次ニ罹患側ニ就テハ我教室ノ症例ニ於テモ甲類諸家ノ症例ニ於テモ左右差ヲ見ナイ様デアル。

次ニ治療問題デアルガ甲類ノ轉歸ノ欄中, 全治8, 輕快6, 不治5, 死亡8, 治療中2, 合計29例ヲ假リニ%ニテ表ハセバ全治27.5%トナリ, 我教室ノ例ハ手術患者8例中全治3例即チ

第 15 表

報 告 者	発表年度	全治率	死 亡 率	
			手術死	晩期死亡
朝 倉	1912	54.9%	5.4%	6.5%
阿久津, 折笠	1913	45.5%	5.6%	24.9%
小 島	1924	45.4%	13.3%	—
谷 野, 中 村	1925	52.0%	6.7%	33.7%
中 川, 小 池	1929	40.0%	6.7%	30.4%
北 川, 岡 部	1930	45.4%	4.6%	17.4%
北 川, 鈴 木	1932	42.5%	0.0%	5.0%
第13表甲類諸家		27.5%	27.5%	
北 川, 渡 邊		37.5%		12.5%

37.5%トナル。之ヲ大人, 小人一括シテ我國諸家ノ全治率統計(第15表)ニ比較スルト, 小兒ハ大人ニ比シテ全治ノ率ガ少イト云ハナケレバナラス。又死亡率ニ就テハ諸家ノ定義一定セズ, 10日以内ヲ手術死トスル人アリ, 1ヶ月以内ヲ以テ夫ト定ムル人アリ, 又晩期死亡ニ就テモ多クノ諸家ハ6ヶ月以後トシテ居ルガ, 阿久津, 折笠兩氏ハ1ヶ年以後トシテ居ルタメ, 其ノ死亡率ハ統一セラレタルモノデハナイ。故ニ之ト比較スルコトハ出来ナイガ, ココニ甲類諸家ノ成績ト我教室ノ成績トヲ假リニ附ケ加ヘテ置ク事トスル。

第 5 章 結 論

- 1) 慶大醫學部皮膚科泌尿器科教室ニ於テ過去14年間(大正9年8月ヨリ昭和9年7月迄)ニ37例ノ小兒腎臟結核患者ヲ検査シタ。其ノ中8例ニ腎臟別出術ヲ施シタ。
- 2) 過去14年間ノ腎臟結核患者數929例中, 小兒腎臟結核ハ37例即チ3.98%ニ當ル。
- 3) 年齢別 滿4年10ヶ月ヨリ數ヘ年15歳マデノ患者ノ中, 5歳以下ハ1例デ, 14—15歳ノモノガ最も多數デアル。
- 4) 性別 男24例, 女13例。
- 5) 罹患側 左右共8例, 兩側6例, 不明15例。
- 6) 主訴 膀胱症狀ガ主デ, 排尿頻數及ビ排尿痛ガ最も多ク, 腎臟部壓痛ヲ主訴スルモノ3例, 夜尿3例アリ。
- 7) 初發症狀ヲ自覺シテカラ我外來ヲ訪レル迄ノ期間ノ最も短イ例ハ27日デ, 多クハ2—3ヶ月日ニ來訪スル。
- 8) 家族的結核性素因ヲ有スルモノハ案外少ク(7例), 結核性既往症アルモノガ13例アツタ。結核合併症トシテハ肺結核14例, 淋巴腺結核4例, 膀胱結核36例, 副睪丸結核3例, 結核性關節炎1例デアツタ。
- 9) 腎臟ノ觸診所見ハ約半數ニ於テ腎臟ヲ觸知シ得, 又半數以下ニ於テ腎臟部ノ壓痛ヲ認メタ。
- 10) 尿中結核菌ハ37例中34例ニ陽性デアツタ。

- 11) 腎臟機能検査トシテハ、水試験、「フェノールズルフォンフタレーン」試験及ビ靜脈性腎盂撮影法ニヨル造影劑排泄試験ヲ數例ニ行ヒ、「インデゴカルミン」排泄試験ヲ12例ニ就テ試ミタ。
- 12) 膀胱鏡検査 腰椎麻酔或ハ局處麻酔ノ下ニ13例ニ就テ實施シタ。
- 13) 手術 手術例ハ8例デ、全身麻酔又ハ腰椎麻酔ノ下ニ、腰式腹膜外腎臟別出術ヲ行ツタ。
- 14) 剔出腎所見 完成期病變7例、終末期病變1例。
- 15) 轉歸 手術ヲ施シタル者8例中、全治3例、輕快1例、不治3例、死亡1例デ手術ヲ受ケザル者11例中、輕快2例、不治3例、死亡3例及不明3例デアツタ。

本稿ヲ終ルニ臨ミ教室員ノ助力ヲ謝ス。

参 考 文 獻

- 1) 阿久津三郎：醫新聞41年，明治41年。 2) 藤沢剛一：醫新聞41年，明治41年。 3) 阿久津三郎：日新醫學，第1年，明治45年。 4) 内村盛太郎：皮尿誌，第12卷，大正元年。 5) 朝倉文三：日泌尿會誌，第1卷，大正2年。 6) 和田英太郎：日泌尿會誌，第2卷，大正2年。 7) 阿久津三郎：日泌尿會誌，第2卷，大正2年。 8) 阿久津三郎，折笠晴秀：日泌尿會誌，第3卷，大正3年。 9) 廣瀬常雄：醫中央誌，第15卷，大正6年。 10) 坂上虎彌太：實驗醫報，第5卷，大正8年。 11) 坂上虎彌太：皮尿誌，第19卷，大正8年。 12) 櫻根孝之進，野口健次，谷村忠保：皮尿誌，第19卷，大正8年。 13) 高木繁：皮尿誌，第19卷，大正8年。 14) 高橋明：皮尿誌，第20卷，大正9年。 15) 菰田廣助：醫新聞，1061號，大正10年。 16) 小澤修造，比留間惠三：醫新聞，1061號，大正10年。 17) 高木繁：日新醫學，第13卷，大正12年。 18) 小島俊：日泌尿會誌，第13卷，大正13年。 19) 谷野驥，中村龜市：日泌尿會誌，第14卷，大正14年。 20) 井上五郎：皮膚紀要，第8卷，大正15年。 21) 大島恒義：日泌尿會誌，第17卷，昭和3年。 22) 村山五瀨男：日泌尿會誌，第18卷，昭和4年。 23) 中川小四郎，小池藤太郎：日泌尿會誌，第18卷，昭和4年。 24) 志賀亮：グレンツ，第3年，昭和4年。 25) 志賀亮：診斷治療，第16卷，昭和4年。 26) 志賀亮，高橋了造：日泌尿會誌，第18卷，昭和4年。 27) 岡部直己，弓創浩：皮尿誌，第29卷，昭和4年。 28) 北川正悌，岡部直己：日泌尿會誌，第19卷，昭和5年。 29) 北川正悌，岡部直己：(結核菌尿ニ就テ)日泌尿會誌，第19卷，昭和5年。 30) 渡邊國一：日泌尿會誌，第19卷，昭和5年。 31) 秋田五郎：日泌尿會誌，第19卷，昭和5年。 32) 井上五郎：治療及處方，第11卷，昭和5年。 33) 高橋了造：北海道醫誌，第8年，昭和5年。 34) 志賀亮，高橋了造：皮尿誌，第30卷，昭和5年。 35) 鈴木時之助：皮尿誌，第30卷，昭和5年。 36) 佐谷有吉，瀧川清一郎：日新醫學，第20年，昭和5-6年。 37) 佐谷有吉：臨牀醫學，第19卷，昭和6年。 38) 宮内憲一：日泌尿會誌，第21卷，昭和7年。 39) 志賀亮：グレンツ，第6年，昭和7年。 40) 志賀亮：日泌尿會誌，第21卷，昭和7年。 41) 北川正悌，鈴木勝之助：日泌尿會誌，第22卷，昭和8年。 42) 波戸定吉：日泌尿會誌，第22卷，昭和8年。 43) 高橋明，尾關彌一郎：皮尿誌，第33卷，昭和8年。 44) 北川悌：日本醫大誌，第4卷，昭和8年。 45) 原多喜馬：東醫新誌，No. 2871，昭和9年。 46) 植田貞三：皮尿誌，第35卷，昭和9年。 47) 大島恒義，永井春生：日泌尿會誌，第23卷，昭和9年。